南无阿彌陀佛作善集

小引

一、「南无阿彌陀佛作善集」は自ら南無阿彌陀佛と號した俊乘房重源建永元年（一二〇六）寂、年八十六の作善の事蹟を列記せるもので、野口遵氏の寄贈によつて東京帝國大學文學部史料編纂所に所藏せられてゐる。

一、本書は建仁三年（一二〇三）の備前國麥進未幷納所所下惣散用（竪九寸八分、幅一尺五寸七分の紙十一枚を繼ぎ合せて一卷となす）の紙背に墨書し、本文は紙約九枚半に書かれ、殘部の二枚半は餘白の儘である。紙の繼目の下端に近くにある花押は紙背文書の末尾に署名せる惣判官代藤原某の花押と推せらる。

一、本書の體裁は卷首に「奉造立修複大佛幷丈六員數」と題してその目錄を掲げ、次に東大寺以下重源が關係深い寺々に於ける事蹟を擧げ、更に社會公共的事業、或は重源自身の傳記に併せて諸種の作善の事どもを恰かも備忘錄風に書き列ねたもので、その末尾に奥書の如きもなく、猶書き繼ぎ得るが如き體をなしてゐる。而してその內容文體等より考へても、又書入れ、訂正の箇所より見ても寧ろ自筆本の體を備へてをり、單なる寫本とは受け取れない。さりとてその書風は到底重源の筆蹟とはなし得ないので、或は侍者の如き側近のものが彼の命のまゝに筆を執り、補正を行つたとでも解すべきであらうか。筆錄の年代もその上限は「於行年六十一蒙東大寺造營　勅定、至當年八十三成廿三年」（東大寺造營の勅定を蒙つた六十一歳は養和元年（一一八一）で廿三年を經た八十三歳は建仁三年（一二〇三）に當る。）とある如く建仁三年で、且つ裏文書により同年七月以降であることは勿論であり、下限は或は又東大寺南大門金剛力士像の記事が補加されてゐるのを見ると、（卷初の寫眞參照）、或は同像の造立された同年十一月以前かとも推せられるが遽かに斷じ難い。斯樣に筆者、筆錄の年代等に關しては猶考究を要するが、然し實質的には重源の自筆本同等の價値を有するものと稱し得られ、その內容も鎌倉初期に於ける佛教美術の研究に缺くべからざる貴重な史料であることは論を俟たない。

一、本書は既に大日本史料にその全文が載錄されてゐるが分割されて引用されてをり、（その大半は同書第四編之九建永元年六月四日東大寺大和尙重源寂ス」の條に、その他は夫々關係事項中に一部分宛に分割引用されてゐる。）又僅かながら誤脫と思はれる箇所もある。

一、本書には異體、略體の文字が多いので異體は出來得る限り活字を作り略字は多く本體に改めた。

一、又間々蠹損の箇所、その他に補筆があるがこれ等は何れも欄外にその旨を註記した。

一、「南无阿彌陀佛作善集」の名稱は卷止めの箇所に墨書せられてゐるがその書は本書とは別筆で且つ年代も稍々後れるものと覺しく、又南无阿彌陀佛作善集の名稱もまたその際名付けたものかと考へられる。

南无阿彌陀佛作善集表題

南无阿彌陀佛作善集紙背備前國麥進米并納所所下物散用（巻首）

同

（巻末）

一、本書を校刊するに當つて新たに活字に作つた異體及び略體の文字を左に掲げる。（田澤）

異體及略體文字

躰體　像像　唐唐　備備　陁陀　搆搆　庭庭

剛剛　那那　壇壇　檀檀　徠修　畳畳

最最　鐵鐵　菩菩提　菩菩薩　弘弘　色色　深深

蛇蛇　臂臂　講講　構構　光光　州州　宛宛

等等　涅涅　槃槃　部部　弥彌　仏佛

世世　邊邊　摩又ハ摩　醍醐　寶寶

隨隨　辨辨　尊尊　漢漢　難難　歎歎　裝裝

料料　蓋蓋　禮禮　恩恩

異體ノ假名

セセ　ママ　ッッ　メメ　ュュ　ェェ　キキ

ホホ

「此外石像地藏一躰」ノ八字ハ同一筆者ノ書入レ
「唐」字ハ「塔」ヲ抹消シテ右側ニ書ク

「瀬」字ノ中央ニ○印ヲ施シ左側ニ細字ニテ「妖」字ヲ書ス
「南大門金剛力士」ノ七字及ビ「三」字ハ同一筆者ノ書入レ

「金剛力士二丈三尺」ノ八字ハ同一筆者ノ書入レ
「并」字抹消ス

奉造立徃複大佛并丈六佛像員數

合

大佛殿七躰　淨土堂十躰　伊賀別所三躰此外石像地藏一躰
唐塔禪院三躰　法華寺一躰　中門二天
國中一躰　渡部一躰　安曇寺一躰
栢杜九躰　山城國一躰　丹波國二躰
播磨國一躰　備中別所一躰　備前常行堂一、
周防南無阿旅陁仏一、　同國府一、　鎭西今津一、
大興寺一、　攝津國一、　備中庭瀬一、妖
南大門金剛力士　已上五十躰三

一　東大寺

奉造立

大佛殿九間四面　大佛十丈七尺金銅盧遮那仏　脇士六丈觀音虛空藏
四天四丈三尺　石像脇士四天　中門二天石師子
四面廻廊南北中門東西樂門左右軒廊合百九十一間
南大門五間金剛力士二丈三尺　戒壇院一宇五間四面
奉納大佛御身舍利八十余粒并寶篋印陁羅尼經
并如法經
兩界堂二宇　勤修長日ノ供養法
奉安曼荼羅八大祖師御影

（紙繼）

「身」字ハ蠹損セルヲ淡墨ニテ補フ

長日寂勝御讀經　奉納脇士四天御身佛舍利各六粒三粒東寺三粒招提

一　鎮守八幡御寶殿并拜殿奉安畳ず身木像御影

納畳八幡宮紫檀甲箏并和琴

一　奉徃複

法花堂　唐禪院堂　丈六三躰二天　僧正堂

御影堂　東南院藥師堂

食堂一宇　安救芒觀音像一躰

大湯屋一宇在鐵湯船　大釜二口之内一口伊賀聖人造立之

鯖木跡奉殖芹樹一　奉徃複橋寺行基并御影

奉造宮氣比并天一神加尼御宮殿ず

奉結緣

天智院堂　大興寺丈六　伴寺堂

西向院堂皆金缶三尺阿旅陁立像一躰

上官堂皆金缶三尺阿旅陁立像一躰

禪南院堂釋迦三尊像各一躰　迎淨土

尊勝院水精五輪塔一基奉納仏舍利一粒

上醍醐寺　奉造立

下酉酉:栢杜堂一宇并九躰丈六

奉安畳皆金缶三尺立像一、

上醍醐經藏一宇奉納唐本一切經一部

「栢」字ハ誤字ノ上ニ「栢」字ヲ書キ更ニ右側ニ「栢」字ヲ書ス

（紙繼）

大湯屋之鐵湯船幷湯釜

奉安畳

淨名居士影　慈恩大師御影　達磨和尚影各一鋪

奉結緣

本堂　新堂　東尾堂　一乘院　慈心院塔

中院堂　觀音堂

東大寺別所

奉安畳丈六十躰之内一躰六条・尼(殿)御前自余九躰相具御堂一自阿波國一奉渡之

淨土堂一宇

金銅五輪塔一基　奉納御舍利三粒一粒者聖武天皇御所持舍利・今二粒

奉安畳一切經二部　一部唐本　鐘一口

湯屋一宇在常湯一口　印佛一面一千余躰

高野新別所　号専(止)往生院

奉造立一面間四面小堂一宇　湯屋一宇在鐵船幷釜

食堂一宇奉安等身頻頭盧幷文珠(マヽ)像各一躰

三重塔一基　奉安畳一銅五輪塔一基長八尺、奉納一其中水精塔一基高一尺二寸納佛舍利五十一粒

奉安畳三寸阿旅陁像一躰幷觀音勢至唐佛

三尺皆金乍阿弥陁像幷觀音勢至

八大祖師御影八鋪　三尺涅槃像一躰　四尺四天像各一、

執金剛身深虵大王像各一躰　十六想觀一鋪

十六羅漢像十六鋪唐本　釋迦出山像一鋪但紙佛

「高一尺二寸」ノ「尺」字ハ蠹損セルヲ補墨ス

（紙繼）

「又十六羅漢云々」ノ一行ハ同一筆者ノ書入レ「之」ノ右傍ニ「○」印ヲ書ス

「湯屋云々」ノ一行ハ同一筆者ノ書入レ「各八尺」ノ「尺」字蠹損セルヲ補墨「傳法院云々」ノ一行ハ同一筆者ノ書入レ

「金」字蠹損セルヲ補墨

「來迎」ノ二字ノ右傍ニ「●」左傍ニ「○」印ヲ書ス「舍」字蠹損セルヲ補墨

「間」字「面」ノ上ヲ抹リ改ム

「一口」ノ二字同一筆者ノ書入レ

「施入」ノ二字抹消

「立」ノ左側ニ●□印ヲ附ス

又十六羅漢十六鋪唐本墨畫

加法大師御筆之。華嚴經一部　心經三部

良辨僧正御筆見無邊佛土功德經一部

畫繪像湼槃像一鋪　四壁不動尊一、　普同塔一、

湯屋一宇在濕湯船釜

鐘一口　本寺大湯屋鐵船并釜口徑各八尺釜卅石納

傳法院塔九輪鐵施入之　蓮花谷鐘奉施入

播广并伊賀丈六奉爲本樣畫像阿旃陁三尊一鋪唐筆

渡邊別所

一間四面淨土堂一宇奉安皆金缶丈六阿旃像一、并觀音勢至

來迎堂一宇奉安皆金缶●來迎旃陁●來迎像一、長八尺

娑婆屋一宇　銅五輪塔一基奉納佛舍利三粒

大湯屋一宇在鐵湯船并釜　鐘一口在鐘堂一宇

天童裝束卅具　菩薩裝束廿八具　樂器ず

印佛一面一千余躰　奉始迎誦之後六年·成建仁二年　六年

奉結緣一間四面小堂一宇

播广別所

淨土堂一宇奉安皆金缶阿旃陁丈六立像一、并觀音勢至

一間四面藥師堂一宇奉安堅丈六一、

湯屋一宇在常湯一口奉結緣長尾寺御堂并半丈六三躰

觀音勢至四天

施入鐘一口　始畳迎講之後二年始自正治二年

來迎立像一躰　鐘一口

（紙繼）

「瀬」字ノ中央ニ○印ヲ施シテ左側ニ「妖」字ヲ書ス

「三面」ノ「三」ハ初メ「四」ト書シソノ上ニ「三」ト抹リ改メ更ニ横ニ細字ニテ「三」ト書ス

細字「皆金色」以下ノ一行及ビ「摺寫以下」ノ一行ハ同一筆者ノ書入レ

備中別所

淨土堂一宇奉安畺丈六旅陁傢一、

吉備津宮造宮之間奉結緣之鐘一口鑄奉施入之

奉結緣神宮寺堂幷御佛金

奉徃造庭瀨堂幷丈六

妖

周防南無阿弥陁佛

一間四面淨土堂一宇奉安旅陁丈六傢一躰

鐘一口　湯屋一宇　在釜

奉造宮一宮御宮殿幷拜殿四面廻廊樓門

遠石宮八幡宮　小松原宮八幡三所　末武宮御宮殿八幡三、

天神宮御宮殿幷拜殿三面廻廊樓門

伊賀別所

卜五古靈瑞地建立一別所當其中古崎引平

巖石立一堂佛壇大座皆石也

奉安畺皆金旡旅陁三尊來迎立像一、幷觀音勢至各丈六

鐘一口　至肩長四尺　湯屋一宇在釜

皆金旡三尺釋迦立傢一躰優塡王赤栴檀傢第二轉畫傢奉摸作之

摺寫十六羅漢十六鋪同御影堂安畺之　御影堂奉安畺之

備前國

造立常行堂奉安丈六旅陁佛傢

同國府立大湯屋不斷令溫室施入田三丁畠卅六丁

「國中ノ」ノ「ノ」字「二」字ヲ抹リ改ム

「懺法」ノ「法」字書キ損ジ字ノ中央ト左横ニ「ロ」印ヲ附シテ抹消ス

「禮」字「而」字ヲ抹リテ「禮」ト改ム

豐原御庄内造立豐光寺　立湯屋在常湯一口

此外國中諸寺奉修造凡廿二所也

奉結緣　菩提山正願寺十三重塔　鐘一口

三重塔　大安寺鐘一口　結緣讃岐國善通寺修造

天盖湯屋并湯釜　太子御廟安阿旅陁佛建立御堂

於上醍醐一千日之間・無言轉讀六時懺法法奉行

一

御紙衣上下於褌道場於十一所嘔百余人請僧如法經

一日奉書寫供養導師三井寺宰相僧正公顯

凡於上下酉酉奉書寫如法經度々

相模國於笠屋若宮王子之御宮前奉結緣如法經

鎮西於箱崎奉書寫如法經　於糸御庄奉結緣丈六

於那智奉書寫如法經

生年十七歳之時修行四國邊

於生年十九初修行大峯已上五ケ度・三度者於深

山取御紙衣調新紙奉書寫如法經法花經大日經

二度者以持經者十人於峯内令轉讀千部經於熊

野奉始之於御嶽誦作礼而去文　又千部法花經奉讀誦

葛木二度

信濃國參詣善光寺一度者十三日之間滿百万遍

一度者七日七夜・勤修不斷念仏　初度夢想云金鉢御

（紙繼）

「見」字ヲ書シテ抹消ス

舍利賜之即可呑被仰仍呑畢見
次度者面奉拜見阿旅陁如來
奉造立竪丈六四躰　此度自加賀馬場參詣白山立山
大唐明朔阿育王山
渡周防國御材木奉起立舍利殿　爲咍理又奉渡柱
四本虹梁一支　南無阿旅陁佛之影木像畫像二躰
安置阿育王山舍利殿供香華ず
興福寺　施入湯船二口　五重塔心柱三本
炎明山　施入湯釜
攝津國小矢寺咍造之時奉結緣之
伊勢國石淵尼公奉渡三尺地藏并一躰
天王寺御塔奉咍複之　奉咍造法華寺御堂一宇塔二基
奉咍複丈六一躰并脇士　或人夢想云光明皇后令來給被仰悅云々
於春日社大般若經一部奉安置之　崛六十人禪侶展供養齋莚了
於當寺八幡宮御宮前奉供養大般若三部安置之
伊勢大神宮奉書寫供養大般若六部　內宮三部　外宮三部
六部三度奉供養毎度加持經者十人六十人請僧
并持經者皆勢州人也導脫(師脫)御房今二度者[以]本寺僧徒奉供養之
天王寺御舍利供養二度　大法會一度　小供養度々
於西門滿百万遍度々

「尼」字「公」字ヲ抹リテ「尼」ト改ム

「ヤシロ」ノ三字ハ抹改ス

「加」ノ振假名ハ「クハヘテ」ヲ抹消シ更ニ右ニ「クハヘテ」ト書ス

「於」ノ振假名ハ「ヲテ」ノ「ヲ」ヲ抹消シテ右側ニ「シ」ヲ書ス

「引導」ノ二字抹消、側ニ「口入」ノ二字ヲ書ス
「營」字ノ「呂」ノ部分抹リ改ム
「也」字ノ右ニ抹消ノ意味ニテ○印ヲ附シ前行ノ「成」字ヲ加ヘタルガ如シ
「日」字ノ下ニ送リ假名アリ判讀シ得ズ
「有」字「御」字ヲ抹リ改ム
「御」字別筆補入(墨書異ル)「有」字前行ノ「有」ニ同シ
「歳」字ヲ抹消シテ「星」字ヲ書ス

大和國諸寺諸山併施入御明御油

五輪石塔一基 高五尺 奉渡九条入道殿下

實無山北面奉施入三尺阿旅陁立像一躰

秦樂寺南施入半丈六迎講像一躰

額觀寺奉安畳大佛形佛半丈六

東小田原北行十余町萱堂安畳厨子佛一脚

依葛上淨阿旅陁引導河内國奉安畳三尺木像阿旅陁佛一、唐仏

於行年六十一蒙東大寺造營勅定至當年八十三成

廿三年也、而六年奉造立大佛遂御開眼之日後白河

院有臨幸又御棟上同臨幸、又五六年之間造畢御

堂申請御供養當院御位時有臨幸

當寺申寄六ケ所庄薗死量仏性燈油人供會式

ず用途決定可被切頸人申免事十人

放生少々施行少々

渡邊橋并長羅橋ず結縁之河内國草香首源三釜一口與之

攝津國乙國旅勒丈六結縁之藥師寺塔結縁之

奉結縁千躰地藏

魚住泊彼嶋者昔行基并爲助人築此泊而歳星

霜漸積侵損波浪然間・上下船遇風波漂死輩不知幾

千仍逐并聖跡欲複舊儀

(紙繼)

「壞」字書キ誤リタルタメ右側ニ「止」字ヲ書シ更ニ下ニ同ジ字ヲ書ス

「成」ノ振假名ノ「シ」ハ「ス」ヲ抹リテ改ム

「奉安置」ノ左側ニ〇印ヲ附ス

「始之」ノ二字ハ別筆後補

河内國狹山池者行基舊跡也而堤壞壞崩既同山野
爲彼改複　臥石樋事六段云々
清水寺橋并世田橋加口入
備前國船坂山者自昔相交　綠陰往還　人或愁惱或失
身命仍勸進國中貴賤切掃彼山成顯路永盜賊難
或又伊賀國所々山々切掃往反人令平安
又同國道路寂惡之故往還人馬其煩多或付損害
或死亡仍爲助彼峻惡所々悉作直止人畜歎
鎭西廟田施入常湯　結緣湯屋事、已上十五ケ所加常湯定
奉圖繪大佛曇荼羅七鋪
一日書寫法華經數部爲自他法界并父母也
率都婆一日經數度
奉渡越前阿闍梨白檀三寸阿旅陁像一躰不動尊一、
奉安置厨子來迎旅陁三尊立像各一、
笠置般若臺寺
奉施入唐本大般若一部　鐘一口
白檀釋迦像一躰聖武天皇御本尊也
近江國旅滿寺
奉施入銅五輪塔一基奉納仏舍利一粒　額一面
阿旅陁佛。名付日本國貴賤上下事建仁二年始之成廿年

（紙繼）

南无阿彌陀佛作善集

史料編纂所藏

「鑒眞」ノ「眞」字書キ誤リ左側ニ同字ヲ書ス

「摸」書キ損シ同字ヲソノ上ニ書ス

背西方座臥輩禁制之　九品取始之

厨子佛一脚阿旃陁三尊　中尊一尺六寸　脇士　扉　大佛殿鼻陁羅　行基并　旃法大師　聖德太子　鑒眞和尚眞

右自安阿旃陁仏手傳得之奉随身

渡了頭成庄自八条女院自建仁元年被施入渡了淨土堂念仏衆時新并仏性燈油新并王子御供新了

厨子佛一脚三尺旃陁渡帥阿闍梨

厨子佛一脚渡法佛房

高野御影堂旃法大師御所持獨古三古五古納畳之

國見寺一切經奉結縁之

三尺皆金缶釋迦像一躰　立　隅田入道渡之。以優塡王赤栴檀像。第二轉畫像奉摸摸之